



自分のことは自分で考え、行動できる子に

10月に入りますが、今なお厳しい暑さが続きます。しかし、その中でも朝晩に吹く風は涼しく、園庭や川面にはたくさんの赤とんぼが飛び交うようになりました。遅まきの秋がゆっくり近づいてきているのでしょうか。熱中症警戒アラートが連日のように発せられていたときは、園外に出て遊んでいても時間が来たら切り上げることもありましたが、9月の中ごろから少し暑さがおさまると、外に出て水で遊ぶことが多くなりました。どの年齢の子も土や絵具、自然の素材を使って水がさまざまに形を変えることが楽しく、夢中になって遊んでいました。園外に出て園の前の天地川の川あそびも大人気でした。川で小さな魚を探したり、いろいろな生き物を見つけては歓声を上げるなど、水や川には毎回子どもたちの好奇心や探求心を刺激する変化があります。最初のうちは、歩くのもやっとでしたが、回を重ねるとごつごつした石だらけの川底を上手に歩けるようになり、どんなところに魚が隠れているのかな、どうやったら魚を捕まえられるかといったコツをお互いに伝授し合い、試行錯誤しながらも諦めずに川の中を探していました。魚を捕まえるための網も子ども同士が自分たちで譲り合って使い、さらにどんな魚を見たか、園に帰って図鑑で名前を調べるなど、子どもたち自身で学ぶ姿も見られるほど、川あそびは子どもたちにとって最高の場所のようです。

非認知能力と言われる「目標を達成する力」や「周りの人と協力する力」、「感情をコントロールする力」が見事に身に付いている情景を見ることができました。子どもたちの成長には、好奇心や探求心、わくわく、ドキドキする環境と、やりたいことがすぐできる場所が大切だなと感じたところです。

9月に年長組のお泊り保育がありました。目的地が熊の出現により庄原の備北丘陵公園に変わったりと、宿泊先が急遽園に変わるなど変更の連続でしたが、子どもたちは戸惑うことなく、「自分のことは自分です」という目標も達成できていました。状況判断する力が身に付いてきているのだと思います。先月の園だよりでも申しましたが、今こどもたちには「自分のことは自分で考え行動する力」が求められています。これには2歳までに言いたいことややりたいことを、満足するまでやらせてもらい、「やればできる」という自信を身につけることと、3歳以降は相手が子どもであっても、自分の考えを持った1人の人間として接し、意見や考えを求め、相談しながら物事を決めるといっておとなの配慮が求められます。園では3歳になると、毎日一日の終わりに自分の思いや考えを表現したり、友だちや保育者の話を聞く「サークルタイム」という時間を設けており、さまざまなやり取りの中で、自分で考え、判断することの大切さを知ってもらえればと思っています。ご家庭でも、指示や命令では、自分で考え行動するという力は身につけません。お子さんの話に耳を傾け、お子さんと話し合う時間を少しでも設けていただければと思います。

園長

秋といえば・・・「読書の秋」

毎週木曜日は、絵本の貸し出し日となっています。子どもは、同じ絵本を借りて帰ることがよくあります。「ちがう絵本にしたら？」と声をかけてしまうことがあるかもしれませんが、好きな絵本は何度も読んでもらいたいです。

また、大好きな絵本を大好きな人に読んでもらうことで心豊かな子どもに育っていきます。日々、忙しく過ごされているとは思いますが、絵本を通してお子さんのつぶやきなどを聞き、成長を感じながら楽しんでみてください。親子でお互いのぬくもりを感じながら大人も絵本の世界を楽しむことが大切です。

裏の畑では・・・



さぼうさ～ん
土の中で
大きくなあ～れ



わくわく川あそび

魚いるかな？

大根の種まき
4個の種を
穴の中にポロン

石がごろごろ
へっちらGO!で進んでいくよ

さつま芋掘り
どんなお芋が出てくるのかな

石の下に隠れたのかな
出てきて！魚さん

かに つかまえたよ！
すごい！でっかい！

かえる つかまえたよ
えさは・・・何食べるのかな

